

## エイズ（この病気この治療）

### 一 検査無料 匿名も可能 多剤併用し発症防ぐ

（中国新聞 H18年11月29日水曜）

広島大学病院輸血部講師 藤井輝久さん

世界のエイズ（後天性免疫不全症候群）患者・感染者は約3950万人といわれ、拡大に歯止めがかからない。国内でも年に1000人余りの患者・感染者が新たに生じている。今のところ、根治は難しいが、早期治療で発症を遅らせることも可能になった。12月1日の「世界エイズデー」を前に、広島大病院（広島市南区）輸血部の藤井輝久講師（40）に症状や治療法などを聞いた。（上杉智己）

### 一 恐ろしい病気というイメージが強いです。

エイズは、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染して起こる病気。HIVは、白血球のうち「CD4」といわれるリンパ球の一種に感染する。CD4リンパ球は異物から体を守る免疫システムの指令塔の役目をしているので、HIVに感染すると、体内の免疫システムが壊されていく。

### 一免疫機構が破壊されると、どうなるのですか。

免疫力の著しい低下により、健康体であれば、まずかからない病原体に感染して発病しやすくなる。食道などにカビが生えるカンジダ症やカリニ肺炎、結核など23の感染症がエイズの診断基準となっている。治療しな

ければ、H I V感染から5～10年でエイズを発症する。最近では、抗H I V薬によるコントロールが可能で、必ずしも死と結びつくような怖い病気ではなくなっている。

—H I Vの感染ルートは。

性的接触、母子感染、血液感染の3つの経路がある。うち性的接触が大多数を占め、中でも男性同士の同性愛による感染が増えている。胎内や授乳時の母子感染、使い回しの注射器を介する血液感染については、割合としては少ない。

年齢や性別では、20～40歳代の男性の比率が最も高い。コンドームは避妊のためだけでなく、H I Vをはじめとする感染症から身を守る最も有効な手段。これが浸透すれば、感染拡大を防げるはずだ。

—「同じ便座を使うとうつる」などと誤解している人もまだいます。

H I Vは、空気や水の中では長く生存できない。握手をしたり、同じプールで泳いだり、同じコップや便座を使ったりしてうつることはない。3つの経路、特に、性的接触に注意を傾けてほしい。

—感染が分かった場合、どんな治療を進めますか。

H I Vを体内から排除する薬はなく、完全に治す治療法はないのが現状だ。しかし、抗H I V薬の開発が進んでおり、H I Vの増殖を抑えることは可能。血液検査でC D 4リンパ球の数を定期的に把握しながら、薬を投

与するタイミングや量を決める。通常は多剤併用といって3種類以上の飲み薬を同時に服用する。

H I V感染の発見が早ければ早いほど、治療によって免疫力を維持することができる。H I Vに感染しながら、エイズを発症せずに一生を終えることも可能と思われる。発症した後でも、感染症を治しながら抗H I V薬を服用することで、免疫力を元の状態に戻す治療ができる。

—何か自覚症状はありますか。

感染して数日後から、インフルエンザのように発熱などの症状が続くが、気づかないこともある。無症状の期間が長いので、特に検査が重要だ。エイズを発症する前に、帯状疱疹やB型肝炎、梅毒、アメーバ赤痢などの病気で医療機関を受診して、初めてH I V感染が分かるケースも増えている。

—検査はどこでも受けられますか。

各地の保健所で相談・検査を受けられる。各地の保健所で相談・検査を受けられる。検査は無料で、匿名でも可能だ。約20分で結果が分かる即日検査や、日曜日に受けられる日曜検査もある。H I Vの抗体の有無を調べるので、心当たりのある性行為から約1ヶ月間の経過が必要。感染が判明しても発症を防ぐ道はあるので、安心して相談してほしい。